

Local Life journal

ローカル・ライフ ジャーナル Vol.2
2016 Spring

in Nara Okuyamato



奈良・奥大和

Local Life Report

奥大和エリアの移住・定住にまつわる動きをレポート。
今回は明日香村、黒滝村、高取町、天川村をご紹介します。

from
明日香村
ASUKA
MURA

ポジティブなパワーは
オーガニックの傍から。

飛鳥駅近くで、たるたる自然農園を営む樽井さん。脱サラし、大阪からこの地に移住・就農して10年目。「自然農法の理論は、常にアップデートされている科学の最先端。ワクワクするじゃないですか」と快活な声で話す。2013年に明日香バイオマルシェをスタートしてからは、お客さんや生産者同士のネットワークも拡大中。「マルシェに来られるママさんたちの前向きなエネルギーはすごいですよ。今年からは皆で畑もやります！」持ち前のバイタリティーで、コミュニティづくりにも一役買っている。



自然農を志したのは「自然の理を追究したい」という思いから

電線がなくのどかな真弓の丘。ここに体験型ファームが登場する予定

無肥料とは思えないほど大きく、形の揃ったにんじん。味は濃く、雑味がまったくない

明日香バイオマルシェ 毎週全曜日/9時~12時/あすか夢の楽市駐車場にて
Facebook「明日香バイオマルシェ」

from
黒滝村
KUROTAKI
MURA

林業の明るい未来へ
今こそまさに変換期。



黒滝村森林組合に勤める吉村さんは、北上山村で5年間林業を経験後、黒滝村へ移って1年。以前は親方と2人だった職場も、現在は仲間が7人に。30歳の吉村さんの他に、20代の新人2人を含む。「山仕事に興味のある若者は増えていっていると思います。地元で継承していた昔と違い、今は都会からの参入者も多いため、教育が重要になっています。僕たちが技術向上できる場も欲しいですね」。危険を伴う仕事ゆえ、次世代へ向けた新しいしくみづくりが求められている。

黒滝村は吉野杉の名産地。1haに8000~1万本という密植により、年輪が細かく幹が真っすぐな杉を育て上げる



高校時代に読んだC.W.ニコル氏の本がきっかけで山の世界へ。大学卒業後、緑のふるさと協力隊からスタートした

黒滝村森林組合 ☎0747-62-2124

from
高取町
TAKATORI
CHO

地域貢献を惜しまず
町全体でとらえる暮らし。



蔵を改装した自宅の1階は、奥様のダンスのレッスンスタジオ。旦那様は有機農業と、常にアクティブなお2人

土佐街道沿いの料理店「やまと吉永」は、大阪から移転オープンして15年。知人の紹介で訪れた高取町で、江戸末期の旧造り酒屋に会い即決、全面改装した。商売の傍ら、地域の文化祭やCMづくりなどに協力したり、海外交流を行うなど積極的に活動。「うちのお客さんも2、3組移住して来られましたよ。この町並みに惹かれる方は多いので、空き家を若い芸術家に自由に使ってもらえたら…なんて思い描いています」と奥様。移住者の新しい風が、町を活性化させる好例だ。



高取町の城下町として栄えた面影が色濃く残る。最近では食事に訪れる海外のお客さんも増えているのだとか



庭を望む朱塗りのカウンターが印象的。料理はもとより、吉永さん夫妻の明るい人柄も魅力

やまと吉永 ☎0744-52-1008 高市郡高取町観音寺1433

from
天川村
TENKAWA
MURA

住めば住むほど
面白くなってくる。



家族で移住して4年目。「やっど心のゆとりが出てきました」と話す

空き店舗を活用したカフェ。地元人と観光客が集う



茶色が特徴の茶豆。これで作った豆乳や豆腐は、ほんのり甘く清涼感のある味わい

天河大弁財天社のすぐ近くでカフェOh Tree おおとりを営む山本さん。先日、商工会からの依頼で、奈良県主催「あったかもんグランプリ」に出品するご当地グルメ、茶豆を使った豆乳汁を開発。「茶豆との出会いは、天川へ来てすぐ、チヨエばあちゃんに種を分けてもらったことがきっかけ。茶豆を村の特産に育て、天川の良さを発信したり、仲間を増やしていけたらいいな」。1つ1つの縁が今につながるのを感じている日々だと言う。

Oh Tree おおとり ☎090-4949-4124 高市郡天川村坪内240-1
Facebook「Oh Tree おおとり」

奥大和移住定住交流センター「エンガワ」2016年4月 OPEN

奥大和への移住者と地域の人たちをつなぐ交流スペースが、橿原総合庁舎(まほろばキッチン隣)にオープン。奥大和移住コンシェルジュがお待ちしています。
☎0744-48-3019 橿原市常盤町605-5 月9時~18時 休土曜

engawa

発行・問合せ：
奥大和移住・定住連携協議会
(事務局：奈良県移住・交流推進室
☎0744-48-3016)

Local Life
in Nara Okuyamato

本紙は、奥大和地域に暮らしている方々へ、移住者や地域での移住・定住に関する取り組みを紹介し、自らが住む地域の良さを実感していただくために発行しています。



1 研修生の皆さん。左から、岡さん(奈良県 田原本町出身)、臼井さん(東京都出身)、鈴木さん(静岡県出身) 2 工房は下市の町を見渡す気持ちの良い高台にある

順調に前進中! 地場産業のイノベーション。

下市町から全国、世界へ。
鉋が引き出す吉野杉の美。

豊かな森林資源を活用した産業が根付き、割箸発祥の地として知られる下市町。近年は、林業の衰退や輸入品の台頭により元気を失くしつつあった地場産業だが、2014年12月、新しく家具工房がオープン。さて、どんな活動をしているのだろうか。



2

3 柔らかい吉野杉は座面に使用。驚くほど優しい座り心地 4 鍛冶師・大原康彦氏が作る鉋。木肌を潰さない切れ味こそが命 5 鉋で曲線を出すのは至難の業。台を当てず、自分がイメージするカーブに沿って腕を動かす技術が必要 6 刃の鋭さが仕上がりの美しさを左右するので、道具の調整は必須 7 薄く薄く削ると何も塗らなくても自然な艶が。吉野杉には鉋でないと出てこない雰囲気がある



吉野杉のイメージを
いい意味で裏切る。

シユツ、シユツ、シユツ。静かな工房に響き渡る鉋の音。家具職人と3人の研修生たちが、黙々と仕事に取り組んでいる。ここは、下市木工舎「市ichi」。吉野杉を使った鉋仕上げの家具製作と、若手の職人育成を目的とする工房である。指導運営にあたるのは、兵庫県三木市の徳永家具工房で修業を積んだ森さん。徳永家具工房と言えば、「鉋仕上げ」で有名な工房だ。やすりではなく、鍛冶師が作った特別な鉋で仕上げをする。木の個性を引き出し、驚くほど力強く艶のある家具を生み出すことができる。



鉋を使う大工からは難材と言われる杉。毎日向き合うことで「ようやく削れるようになってきた」と森さん

まず朝は、
気合い入れて
鉋の刃研ぎから。

だと言われてきたけれど、実はもうと使い様があるのではないかと。そこから、吉野杉との関係が始まりました。鉋技術の伝承を志す徳永には、日本の林業や地場産業に対し

でも同じ思いがあったのだと思えます」と森さん。縁あって下市町と奈良県が工房兼宿舎を用意して迎え入れることになり、約40人の応募者の中から4人の研修生が選ばれた。オープンから1年と少し経った今は、順調に注文が入り、家具製作に追われる日々。「研修生たちも道具には慣れ、次は自分のイメージを形にする段階へ進む時ですね」と森さん。一方、研修生たちは、「1日も早く自分の思い通りに鉋を扱えるようになりたい」「鈴木さん」「吉野杉の鉋仕上げという技術は、海外でも勝負できると思う」「臼井さん」と、意欲と夢を抱いて仕事に励んでいるようだ。

杉を愛する下市人が
町ぐるみで応援。

対する地元への反応はどうだったのだろうか? 「若い人が木の仕事をしたいという声も出てきた。自分でも材料を仕入れてみると、杉は特に地元の山で人が手をかけて育てているものなので、大事にせなあかんという意識が強くありますね」と森さん。そんな活動を見守る萩本町長も、杉を愛する一人。「市ichiの実績が出てきたので、地元の子にも興味を持ってもらえるようになりたいですね。今は空き家と同時に関心工場調査が済んだところ。林業、木工業の町・下市をまた盛り上げていきたい。杉は

近じやないですよ。そのうち、杉の家具と言え、下市ついでという時代が来たらいいな。花井商店は市ichiの仕入れ先。吉野杉のエキスパートである社長の利博さんは、森さんのよき相談者だ。「市場に連れて行ってもらったりと色々良くしてもらっています。自分で材料を仕入れてみると、杉は特に地元の山で人が手をかけて育てているものなので、大事にせなあかんという意識が強くありますね」と森さん。そんな活動を見守る萩本町長も、杉を愛する一人。「市ichiの実績が出てきたので、地元の子にも興味を持ってもらえるようになりたいですね。今は空き家と同時に関心工場調査が済んだところ。林業、木工業の町・下市をまた盛り上げていきたい。杉は

吉野杉の良さを
発信する。
そして雇用が
生み出せれば。



萩本龍昭町長。割箸も林業衰退の痛手を受けているが、発祥の町として伝統を守っていききたいと意気込んでいる

杉は一番上品。
森くんも
吉野杉の
虜になってるわ。



「けなされたら腹が立つほど(笑)」と、吉野杉への愛が溢れる花井社長。「杉は温もりがあり飽きがない。価格も実は高くないよ」

ichi
下市木工舎 市

Information

旧水道事業所の建物を改装した工房。「市」という名は、下市町が吉野の玄関口として栄え、市が立っていたことから、地場産業の、若い労働力を生み出す拠点となることを目指す。今年3月には東京にて初の展示会を開催するなど、広く発信している。

☎0747-68-9118
〒吉野郡下市町阿知賀61
営業時間 8時30分~18時30分
休 日 曜 日
http://ichi-shimoichi.com/
※個人オーダーも歓迎です

Facebook「下市木工舎 市 ichi」
美しき日本「吉野郡下市町」

市ichiの家具に出会いに行こう。興味を持った方は、工房を訪れるか、もしくは下記の施設でも家具に触れることができます。

- ホテルサルート奈良
奈良公園・猿沢池近くのホテルロビーに置かれたテーブルや椅子が、旅の疲れを癒す。
☎0742-22-5151
〒奈良市高畑町1110
- OFFICE CAMP
東吉野村のシェアオフィス。コーヒースタンドもあるのでドライブが立ち寄りやすい。
☎0746-48-9005
〒吉野郡東吉野村小川610-2
- ときのもり LIVRER
東京・白金台に2016年1月オープンした、奈良の上質な食材や工芸品などを伝えるカフェ。
☎03-6277-2606
〒東京都港区白金台5-17-10

